

令和6年度こども家庭科学研究費補助金
(成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業)
(総合) 研究報告書

感染症流行下等の社会的な環境変化による子どもの心身への影響の評価方法及
び対処法の確立に向けた研究

研究代表者 石塚 一枝 (国立成育医療研究センター社会医学研究部 専門職)

研究要旨

目的：COVID-19 パンデミック下において、子どもの心身の健康や発達に与える影響を解明し、それに基づいた評価指標および支援の在り方を提案することを目的とした。

方法：文献レビュー、全国調査、自治体へのインタビューおよびリーフレットの閲覧数分析を実施した。レビューでは、日本語・英語の学術データベースから関連文献を収集・整理した。さらに、乳幼児を対象とした縦断調査および学童期の子どもを対象とした全国調査を実施した。また、行政での取り組みについてのインタビューと支援資材の作成を行った。

結果：感染症罹患の減少が見られた一方で、身体活動や心理的健康への悪影響が確認された。全国調査では、母親の孤立やスクリーンタイムの長さが発達や精神健康と関連していた。行政インタビューでは、既存の連携体制を活用した迅速な対応が有効であった。

考察：パンデミック下での生活変化は、子どもの健康や発達に長期的な影響を与えることが示唆された。平時からの連携体制の強化と、早期支援のための評価手法が求められる。

結論：本研究により、感染拡大時における子どもの心身への影響の把握と支援の在り方が明らかとなった。今後、作成した評価ツールや知見を、保健・医療・教育現場で活用することが期待される。

A. 研究目的

新型コロナウイルス感染症の流行及び感染症対策による、子どもの生活や環境等に対する変化や、それによる子どもへの心身への影響が懸念されている¹⁾。食行動・食事摂取量の低下²⁾³⁾、身体活動量の低下、スクリーンタイムやソーシャルメディアの増加、うつ、不安、子どもの自殺などのメンタル

ヘルスへの影響⁴⁾や QOL の低下など多様な子どもの生活環境・健康への影響が指摘されている⁵⁾。

さらに、新型コロナウイルス感染症流行後に、母子の社会的孤立、貧困、児童虐待の増加、家庭内暴力の増加など社会的影響もある⁶⁾⁷⁾。新型コロナウイルス流行時には、日本人のウェルビーイングが低い、

睡眠時間が少ない、自殺が多いなどの課題が指摘されていたが、新型コロナウイルス感染症流行前からともとあった公衆衛生

的課題が顕在化、増悪したと考えられている⁸⁾⁹⁾。

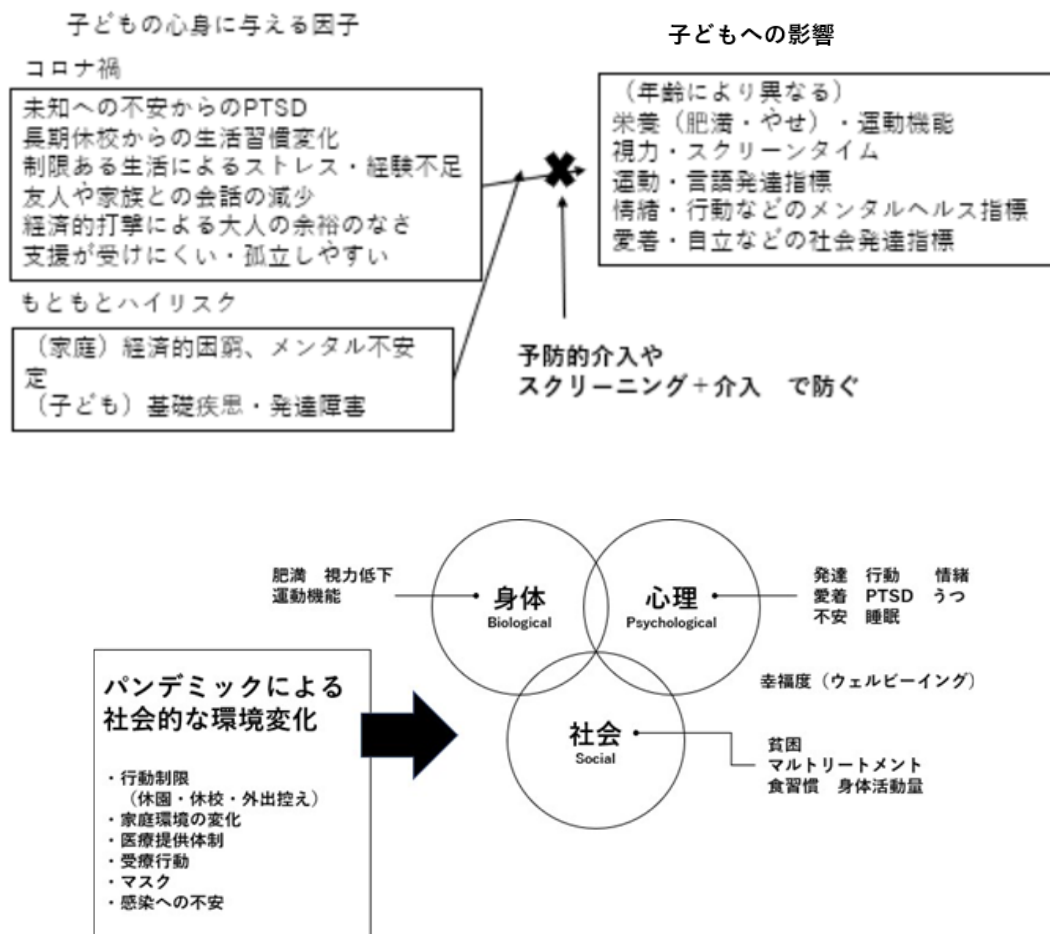


図 1 コロナ下における子どもへの影響

新型コロナウイルス感染症流行のような非日常的な社会状況下で、子どもが心身ともに健康に育つための対応策を講じるため、子どもの環境や心身の健康に関する実態把握や評価指標の作成が求められている¹⁾。

本研究では、新型コロナウイルスパンデミック下での子どもの発達と心身の健康状態の実態把握、影響を評価するための指標を

開発し、家庭や地域など子どもを支える方々向けの資材を作成することで、パンデミックのような非日常の環境で子どもが心身ともに健康で過ごせる生活環境・社会づくりを目指す。

B. 研究方法

令和 5 年度にレビュー及び全国調査の実施、

好事例を収集し、その結果に基づいて、令和 6 年度に感染症流行下に子どもの健康を守るための保護者向けの資料を作成し、資料を家庭へ届ける手段等を考察する。下記に令和 5 年度に実施した内容を中心にまとめた。

1. レビュー研究

Pubmed や医中誌のほか、医学以外を含めた全分野の主要な学術誌が掲載されている Web of Science, CiNii などのデータベースを用いて、日本語及び英語の該当文書を調べることでコロナ下における子どもの心身の健康や成長・発達への影響をリスト化した。

2. 全国調査の実施

上記レビューの結果を踏まえた調査計画を作成し、調査を実施した。

・ 乳幼児調査

新型コロナウイルス流行中に出産した女性の縦断インターネット調査 The Japan COVID-19 and Society Internet Survey (JACSIS) のうち、2022 年 2 月の追跡調査に回答した 4,247 名 (2021 年回答者 7,934 人の 50%) に対して 2023 年 8-10 月に追跡調査を実施した。JACSIS では、父母の心身の健康・経済状況、養育、愛着、発達(社会性発達、自閉傾向含む)に関しての情報を収集しているが、本研究ではこれに加え、子どもの発達行動の課題などの情報を収集した。

・ 学童期調査

全国無作為抽出された小中高生約 2500 名について、コロナ下での子どもの精神的不調(うつ等)とその要因である家庭の環境(経済状況、養育等)、孤立、レジリエンス、休校等について縦断研究を実施している。本研究では、新型コロナウイルス感染症流行で悪化が懸念されている抑うつなどの子どもの心身の指標に関する経時的变化を検討した。

3-1. 事例の収集(1) 成育医療研究センターの情報発信等の実践を通じた分析・検討

2020 年 4 月～2022 年 1 月のコロナ渦における、国立成育医療センターにおける情報発信を振り返り、そのページビュー数などを踏まえ、感染症下における子どもの環境調整に必要な事項を考察した。また、子どもメール相談事業、子ども療養支援士によるコロナ禍の子どもの入院環境調査結果を振り返り考察を行う。

2020 年 4 月 7 日緊急事態宣言がなされる前後から、作成、配信していた子どものストレスに関するリーフレット 16 種とそのページビュー(PV)数を後方視的に算出し、その際の社会情勢との関連性を踏まえて、考察した。

3-2. 事例の収集（2）感染症流行下での乳幼児のいる家庭への行政支援の過程

自治体でのインタビューを実施した。

COVID-19 パンデミックで何らかの取り組みを行っていたことを必須条件とし、保健所管轄区域人口規模、合計特殊出生率、出生数、等の保健所管轄区域の特徴となる条件がばらつくように、かつ、アクセス可能である保健所管轄区域を選定した。自治体の了承及び担当者の同意が得られた場合にインタビューを行った。具体的には、COVID-19 感染拡大下において、工夫した取り組み、感染拡大前に行っていたどのような取り組みや仕組みが役立ったかインタビューを実施した。

4-1. 子どもへの影響の把握・評価法の提案

1 のレビューの結果、2 で収集した調査データの分析、および既存の健診項目を参考に、新型コロナウイルス感染症パンデミック流行下など非日常の環境下で子どもが心身ともに健康で過ごせる生活・社会環境を作るうえで必要となる、乳幼児から学童期にかけての子どもの心身の発達評価におけるチェック項目を抽出し育児支援のポイントを表形式で作成した。

4-2. 家庭向けの資料作成

新型コロナウイルス感染症流行下のような非日常に、乳幼児から学童の子どもの保護者に、子どもの心身の様子の注意点や対

応方法について情報共有する資料を作成した。

C. 研究結果

1. レビュー研究

表題及び抄録によるスクリーニング、その後本文によるスクリーニングを実施し、最終的に国内論文から 118 件、国際論文 89 件、合計 207 件の論文を採択し本研究の対象とした。

身体的影響のうち、主要感染症では、9 疾患において発生数の減少が報告されていた。小児疾患では川崎病発生数や喘息による入院患者数が減少した。

子どもの日常生活行動の変化（スクリーントタイムの増加、身体活動の減少、睡眠・食事行動の乱れ、屋外時間の減少、座位時間の増加）や、近視、体重・BMI は増加、体力・基礎運動能力の低下の報告もあった。

心理的社会的影響として、日本の全国データを用いた調査で 2020 年の 0～19 歳の自殺数は約 44%増加したことが報告されていた。不安やうつ症状といったメンタルヘルスについて、国際的なパンデミック前後を比較したメタ解析ではうつ病の有病率の増加と、うつと不安スコアの増加が報告されていた。就学前児童の甘えや癇癪の増加、コミュニケーション障害を有する可能性の増加など、発達への影響が報告され

た。虐待については、児童保護の相談は減少したとの国際論文、国内論文があったが、2020年の国内調査では、児童虐待事例総数はパンデミック前と比較して5%増加した。

2. 全国調査の実施

乳幼児期の調査では、2～4歳の子どもをもつ母親2,397人から回答を得た。Strengths and Difficulties Questionnaire (SDQ) による支援ニーズは「大いにある」「ややある」が45%で、総合的困難さや「行為の問題」「多動・不注意」「仲間関係の問題」は、コロナ前の国内平均より高く、支援の必要性が示唆された。「向社会的行動」は平均を下回っていた。学童期の調査では、小5～高2の児童・生徒と保護者を対象に、2023年は子ども1,928名、2024年は1,551名から回答を得た。うつ傾向 (PHQ-A (Patient Health Questionnaire for Adolescents) 10点以上) は2021年の11.4%から2024年には14.6%へ増加し、特に小6と中2で「中等度」の割合が増加した。インターネット依存のリスクがある児童生徒は50%を超え、UCLA 孤独感尺度も高学年ほど高値を示した。新型コロナウイルス感染症パンデミック後も子どもの心理社会的影響が続いていることが示唆された。

3-1. 事例の収集 (1) 成育医療研究センターの情報発信等の実践を通じた分析・検討

医療機関の取り組みとして、早期に子どものストレスとは何か、どのような形で生じるのか、そのことに気付いたら周囲はどのように対応するとよいのか、に関して計画的に情報発信を行うことを企画した取り組みについてまとめた。2020年12月29日から2022年6月末 (土日限定) にかけて、メール相談を運用したところ、501件の相談があり、夏季休暇終了後、秋季に最も相談が増加した。相談内容は、自分の心について、親子関係について、希死念慮、不登校、が最多であった。関わったスタッフ (医師、心理士、子供療養支援士など) からのアンケート結果では、有意義であった、こういった子ども専用のメール相談は必須であるという感想のほか、業務負担なども挙げられた。

3-2. 事例の収集 (2) 感染症流行下での乳幼児のいる家庭への行政支援の過程

感染症流行下など社会的環境変化のもとで、乳幼児の保護者 (・子ども) への支援を行っていた行政の支援過程について、5自治体へのインタビュー調査を実施した。感染初期には【感染を防ぐ】ため【対面事業の中止】が行われたが、速やかに【感染流行前からのつながり】を活用して【実施方法を変え】、【悪影響が大きい事業から再開】していた。変更内容は【あらゆる手段

で伝達】され、業務量増加に【総出で対応】していた。流行の鎮静化に伴い、有益な変更は継続され、他は段階的に元の形に戻された。ハイリスク・特定妊婦は【従来法で要支援妊婦を選別】し、援助希求性の低い妊産婦に対しては【複数のつながりから情報を得】て【定期的に連絡をとる】支援が行われていた。

4-1. 子どもへの影響の把握・評価法の提案

パンデミック下で注目すべき子どもの乳幼児期の児のケアと関わり方、栄養／健康状況、家庭での well-being、安全などについての評価方法を提案した。

4-2. 感染症等の非常時における家庭での子どもへの生活支援に関する資料作成

新型コロナウイルス感染症流行下のような非日常では医療機関や相談機関へのアクセスが困難になる状況になるため、保護者の方々に向けての資料を作成した。

D. 考察

1. レビュー研究

文献レビューから、COVID-19 の感染予防の行動は、結果的に他の感染症の罹患の予防にもつながっていたことが確認された。一方で慢性疾患等については受診控えや医療逼迫の状況が影響したことが指摘された。また、子どもたちの体力や運動能力

の低下、近視の増加を認めており、外出や屋外活動が制限されたことによりタブレットやスマートフォンをはじめあらゆる電子機器の使用時間が増え、生活スタイルが大きく変化したこと、運動機会が制限されたことが大きな要因であることが確認された。

長期にわたる学校閉鎖というこれまでに経験したことのない事態は、身体的健康だけでなく心理的社会的健康状態にも影響を及ぼしたことが文献レビューで確認された。

2. 全国調査の実施

新型コロナウイルスパンデミックの行動制限下で、人々は厳しい行動制限を受け、社会との交流が限定されていた。しかし、パンデミックが沈静化して行動制限が緩和されたにも関わらず、抑うつ傾向は 2024 年においてもまだ悪化傾向が続いている。行動制限中に縮小した社会関係や職場・学校での人間関係は、解除後に直ちに元の状態に戻るわけではない。社会的交流の再構築には時間を要し、一部の人々にとっては再び対人関係に適応することが新たなストレスとなっている可能性がある。パンデミックによる行動制限は、学校生活や部活動、同世代との交流機会が制限され、思春期における心理社会的発達課題の達成を妨げられた可能性が考えられる。抑うつと関連する孤独感は一度悪化すると短期間で回復しにくい。

孤独感については、人々と対面で会う機会など、社会的環境変化がより直接的に影響する部分もあり、抑うつ傾向より早期に改善傾向が見られたものと考えられる。

3-1. 事例の収集（1）成育医療研究センターの情報発信等の実践を通じた分析・検討

コロナ禍において子どもと家族が直面する可能性の高い問題や課題について、リーフレットを作成、いち早く提示し、多くのPV数を得た。その背景には、リーフレットに予期的ガイダンスとしての意義があったことが挙げられる。また、今回のleafletは、単発ではなく継続的にエンパワメントの視点を重視して情報発信を行なったことによる心理的効果が発揮され、PV数の増加につながった可能性もある。更に、今回のleafletは子どもの権利を意識して作成した。子どもたちが自分自身の生活や自分について行われる事象における自己決定について主導権を握りコントロールできるように支援する姿勢も重要である。そして、子どもを中心にその家族をひとつのユニット（社会的組織）としてケアの対象と捉え、家族、学校、地域社会など、マルチレベルの社会を対象としたことも、PV増加につながった理由として考察できるだろう。

3-2. 事例の収集（2）感染症流行下での乳幼児のいる家庭への行政支援の過程 感染症流行下での乳幼児のいる家庭への行

政支援過程からは、感染流行前からの自治体内部や関係機関との【つながり・連携の仕組み】により、感染防止と母子保健を両立する支援が可能であったことが明らかとなった。有事に備え、平時からの連携体制の整備が重要であることが確認された。

4-1. 子どもへの影響の把握・評価法の提案

本研究ではパンデミック下で、子どもが心身ともに健康で過ごせる生活・社会環境を作るうえで必要となる、乳幼児から学童期にかけての子どもの心身の発達評価におけるチェックシートを作成した。今後、本チェックシートを試験的に活用し、その有用性や実用性の検証が必要となる。その際には医師、看護師や保健師、心理士、保育士など子どもの発達支援に関わる多職種の視点を取り入れていくことが欠かせない。

4-2. 感染症等の非常時における家庭での子どもへの生活支援に関する資料作成

同時に本チェックシートをもとに家庭向けの資料（「非日常がこどもの心と身体にもたらす変化 どう気づく？どう対応する？小児医療の専門家から保護者の皆さまへのアドバイス」リーフレット）を作成し、厚労省データベース、コロナこども本部のウェブサイトにて公開予定である。非常事態での子どもの心の不調や発達の心配に対する養育者の不安・疑問に答え専門家への相談が必要かどうかの目安になるものであり、今後の発信による啓発効果の展開、定着が期

待される。

コロナ下における環境の変化は、子どもたちの心身の健康に影響を及ぼした。成長・発達段階にある子どもたちの心身に生じた変化は、行動制限が緩和されても即座には回復していないことが調査により示唆された。

E. 結論

本研究では、COVID-19 パンデミックが子どもの心身や発達に与えた影響を把握し、今後の支援策を検討することを目的に、文献レビュー、全国調査、評価法の提案、好事例の収集を実施した。レビューでは、パンデミックが子どもの生活習慣、身体活動、心理状態に多面的な影響を与えていることが明らかとなった。行動制限解除後の影響に関する研究は今後も継続が必要である。全国調査では、孤独感や抑うつが中長期にわたり子どもの心身に影響していることが示され、これらの課題に対する教育的・社会的対応の必要性が示唆された。早期支援を可能にする評価項目や保護者向けツールをリスト化した。引き続き、新型コロナウイルス感染症流行の子どもへの長期的影響を把握し、対策を講じるとともに、平時からの体制の整備が必要である。

参考文献

- 1) United Nations Children's Fund (UNICEF) "Responding to the mental

health and psychosocial impact of COVID-19 on children and families" (Learning Brief)(Oct.2020)

- 2) 松田紀美. "新型コロナウイルス感染症流行による母子世帯の食生活への影響." *フードシステム研究* 28.3 (2021): 11.
- 3) 中桐規代, 田原誠, and 川上貴代. "コロナ禍による臨時休校中の小学生の食事パターン: コロナ禍による臨時休校中と学校再開後の児童の食品摂取量の比較." *岡山県立大学保健福祉学部紀要* 30 (2024): 57-65.
- 4) 奥山純子, and 門廻充侍. "コロナ禍長期化における児童・青年の身体活動とメンタルヘルス." *ストレス科学研究* 36 (2021): 3-11.
- 5) 野井真吾. "コロナ禍で考える子どものメンタルヘルスと身体活動の普遍的価値." *子ども・青少年のスポーツライフ・データ* 2021 (2021): 38-46.
- 6) 才村純, et al. "< 学内共同研究報告> 新型コロナ禍における子育て家庭の育児ストレスや子ども虐待の実態及びその対策に関する予備的研究." *東京通信大学紀要 第4号* 4 (2022): 339-358.
- 7) 斎藤環. "コロナ禍における『ひきこもり生活』がもたらす心理的影響." *日本労働研究雑誌* 729 (2021): 84-89.
- 8) Madigan, Sheri, et al. "Changes in depression and anxiety among children and adolescents from before to during the COVID-19 pandemic: a

systematic review and meta-analysis." *JAMA pediatrics* 177.6 (2023): 567-581.

- 9) United Nations "Sustainable Development Group Policy Brief: The Impact of COVID-19 on Children" (April 2020)